
03. 臨床工学技士のエコーによる Vascular Access 管理とエコー下穿刺技術習得への取り組み

○松村 彩子 (マツラエコ)¹⁾、高橋真理子¹⁾、佐藤 佑介¹⁾、井上 博満¹⁾、高橋 康訓²⁾、
今村 吉彦²⁾

(公財) 日産厚生会玉川病院 臨床工学科¹⁾、(公財) 日産厚生会玉川病院 腎臓内科²⁾

【目的】 近年、透析室での Vascular Access (以下 VA) 評価や穿刺の補助として、エコーが活用されるようになり急速に普及している。当院では 2019 年より臨床工学技士 (以下 CE) がエコーによる VA 管理を行っている。今回エコーによる VA 管理技術と、エコー下穿刺技術習得までの経過を報告する。

【方法】 VA 管理についてのセミナー参加や VA 外来を見学し、技術習得を段階的に行った。ステップ 1: VA の理解とエコーの技術習得、ステップ 2: 理学所見と形態評価の理解と実践、ステップ 3: 血流機能評価の理解と実践、ステップ 4: エコー下穿刺技術習得、模擬血管にて練習しその後実践につなげた。

【結果】 技術習得を段階的に行うことでエコーによる一連の VA 管理技術と、エコー下穿刺技術を習得することができた。その結果 VAトラブルを早期に対処できた症例、他院から転入された穿刺困難症例、導入初期の穿刺困難症例等をエコー下穿刺にて対応することができた。

【考察・結語】 VA 管理の最大の目的は VA を長期開存させることであり、透析を熟知している CE が包括的に考え VA 管理を行うことは大きな利点である。今後、CE の主業務として確立するための教育体制を構築していくことが急務であると考えられる。